



# 外国人と人権

## 外国人をめぐる様々な人権問題の発生

今日、我が国に入国する外国人は長期的に増える傾向にあります。こうした中、言語、宗教、文化、習慣等の違いから、外国人をめぐる様々な人権問題が発生しています。例えば、外国人であることを理由に、アパートへの入居を拒否されたり、理容店において外国人であることを理由に理容サービスの提供を拒否されるといった事案が生じています。

また、近年、東京都内等で行われたデモにおいて、特定の国籍の外国人を排斥する趣旨の言動が公然と行われていることが、マスコミ等によって「ヘイトスピーチ」であるとして取り上げられている状況となっています。

「ヘイトスピーチ」は、人種、出身国、民族、宗教、性的指向、性別、容姿、健康（障がい）といった、自分から主体的に変えることが困難な事柄に基づいて、属する個人または集団に対して攻撃、脅迫、侮辱する発言や言動のことです。日本語では「憎悪

表現」の他、「差別的憎悪表現」、「憎悪宣伝」、「差別的表現」、「差別表現」、「差別言論」、「差別扇動」、「差別扇動表現」、などと訳されます。

### ヘイトスピーチ解消法の施行

「ヘイトスピーチ解消法」が施行されてから四年目を迎えています。我が国におけるヘイトスピーチ問題への理解は進んできてはいますが、いまだ国民全体に理解が広まったとは言えませんが、



### 法務省の人権擁護機関においては、ヘイトスピーチは許されないという意識をより一層普及させるため、引き続き広報・啓発活動を行っています。

### 宿泊拒否事案への対応

ビジネスホテルに電話で宿泊の予約をしようとしたところ、外国人であることを理由に宿泊を拒否された事案がありました。

法務局がホテル関係者から事情を聴取したところ、ホテル側は、不適切な対応があったため、被害者に謝罪したいとの意向を有していたものの、行き違いにより、関係の回復が

未だ図られていない状況であることが判明しました。

そこで、法務局は、ホテル側に被害者との話し合いの場を設けることを提案し、被害者も話し合いに応じる意向を示しました。

話し合いの場において、ホテル側は事情の説明と謝罪を行ったうえで、今後は、英語表記の対応マニュアルを活用するなどして外国人宿泊客の受け入れ体制を改善したい旨を伝えるところ、被害者もこれに理解を示したということです。

### お互いの人権に配慮した行動をとりましょう

今年の七月には東京オリンピック、八月にはパラリンピック競技大会の開催を迎えることもあり、外国人と接する機会は益々増加することが予想されます。

外国人に対する偏見や差別をなくしていくため、文化等の多様性を認め、外国人の生活習慣等を理解・尊重するとともに、お互いの人権に配慮した行動をとるようによみましょう。

（参考文献：法務省

「ヘイトスピーチ、許さない。」

「外国人の人権を尊重しましょう」  
文責：教育委員会武蔵分室 田城

# こころをつなぐまちづくり

人権シリーズ vol.165

市長室から  
ひこしぎの国

市長日記

105

「ふしぎの国のバード」 国東市長 三河明史



あるとき新聞を読んでいると、ある本の広告が目飛び込んできました。その本の名は、「ふしぎの国のバード」。この本は、コミック誌いわゆるマンガ本です。

明治時代の初頭、イギリスの女性探検家イザベラ・バードが、一人の日本人の通訳を連れて、日光から、日本人でもよく知らない会津道を踏破し、新潟、山形、秋田、そして蝦夷地に至り、その旅を探検記「日本奥地紀行」として表しましたが、この本はそのコミック版なのです。

彼女のことは聞いたことがあったし、当時の日本がどうであったのか彼女の目を通してではあるが、それを知りたいと猛烈に思い購入したのです。読んでみるとこれは大変面白い本なのです。

私ははじめ、英国という「文明国」の人間が当時の日本を「未開な野蛮な国」として書いているかと思っていました。ところが違ったのです。彼女は、明治初頭の、まだ「未開の国」であった日本のその奥地の風景や、日本人の生活や文化、そして日本の民衆について、実に生き生きと書きとどめているのです。彼女は、店主が留守でも品物を盗まれないことに驚いたり、日光東照宮のおびただしい彫刻や日本料理の食器の美しさに驚嘆したりしながら旅を続けていきます。

旅行中、イギリスに住む妹のヘンリエッタへ数多くの手紙を書いており、作中にも出てくるのですが、「姉さんは今、日本というふしぎな国を旅しています。三日間の約束で雇った車夫達は、裸同然の格好で、全身に入れ墨をしています。皆驚くほど礼儀正しく、不思議なほど親切です」、「姉さんは今、日本というふしぎな国を旅しています。この地方では、スイカ、朝鮮人参、食用菊、搔きちしゃ（レタス）、色々な作物を栽培して、本で読んだとおりの芸術的な風景です。あなたにも見せてあげたい、この美しい、おとぎのよ

うな国を」などと日本を紹介しています。



大英帝国の女性旅行家  
イザベラ・バード(1831-1904)

そして、ある宿場に着く前に、馬が暴れて荷物が散乱し、着いたら、革のベルトが一本見当たらないということがありました。それを聞いた馬子の甚兵衛さんは、かなりの距離を走って戻って回収してくれたのです。そこで彼女はお礼のチップを渡そうとするのですが、「正規の賃金以上は受け取れません。すべての荷物を、責任をもって届けるのが自分の仕事ですから、お気持ちだけいただきます」と固辞するのです。どうですか。明治時代の人達は素晴らしいですね。感動しました。庶民でも、正に正直で、親切で、そして精神に毅然としたものを持っていたのでしようね。

私は子どもの頃、よく祖母に「明史、めんどしいことはするな」と言われたものでした。その私は社会に出ると、上司に叱られたり、失敗をしたり、祖母に叱られるような「めんどしいこと」もしてききましたが、明治生まれの祖母はただの田舎の農婦でしたが、毅然としたものをもっていたように思っています。

それに比べたら、最近の一流大学出の高級官僚達のめんどしいこと。隠したり、嘘を言ったり、廃棄したり、改ざんしたり、恥ずかしいたらありやしない。明治時代の名もない庶民の方がよほど高潔で、毅然とした素晴らしい精神を持っていたようですよ。いつから日本は、こんなに堕落して劣化してきたのでしょうか。

「ふしぎの国のバード」、面白いですよ。読んでみてください。

### 【引用文献】

佐々大河(2015)「ふしぎの国のバード」  
KADOKAWAビームスコミックス

※馬子：駄馬を引いて人や荷物を運ぶのを業とする人。馬方。(日本国語大辞典・小学館)  
※めんどしい：はずかしい。(大分方言語録：大分合同新聞社)